

日本語とキルギス語の補助動詞の対照研究

— 「～ておく」と (v-koy) について —

スバゴジョエワ・アセリ

本報告の目的は、日本語の補助動詞「～ておく」とキルギス語の補助動詞 v-p koy (置く) を研究対象とし、これらがいかなる対応を示しているかを考察することにある。研究の背景としては、キルギス語と日本語の対照研究は少ないことと、ロシア語の研究で用いられた方法や分析がキルギス語にも適用され、固有の特徴が無視されることを挙げた。そして、キルギス語を含むチュルク諸語の研究では補助動詞に関する研究が多少行われているが、アスペクト的な意味に関しては未だに十分研究されていない。

日本語とキルギス語は SOV 言語であり、基本的な語順が類似し、特に述語形式において共通性が高く、並行的であるにも関わらず、キルギス教育機関において、類似していないロシア語を媒介語として、教師や学生が日本語教育・学習を進めている。しかし、キルギス語と日本語の類似性を十分活かした方が、キルギスの日本語学習者とキルギス語学習者にとって大いに役立つと考えられる。例えば、両言語の共通点として、「～ておく」と v-p koy はそれぞれ本動詞と補助動詞としての機能が保たれているのが挙げられる。しかし、v-p koy は、前接する動詞と副動詞の種類や文脈によって結合できる動詞の範囲が日本語の「～ておく」ほど広くない。さらに、動詞の否定接尾辞を含む述語構造は形式的に対応していない場合がある。本報告では、日本語の「～ておく」について従来の研究の成果を参考にしつつ、キルギス語の v-p koy を実例に基づいて比較対照を行うという研究方法を取った。

日本語の「～ておく」の意味・用法については、多数の研究が行われ、これまで、アスペクトの意味を表す形式 [高橋 1969] の他に「準備」を表す形式の観点から捉える立場があり、さらに、それら二つの側面を統一的に捉える立場 [大場 2005] がある。

(1) 九月ごろまでしまっておくのに洗濯した ... [アスペクトの意味] [高橋 1969: 133]

(2) 試験を受けるときなんぞは少し前に落ち着いて勉強しておかないといけませんよ。

[準備] [高橋 1969: 147]

大場 [2005: 23] は、日本語の補助動詞「～ておく」を ①「動作終了後の状態の保持」、②「動

作中の状態の保持」、③「間接的な効果・効力」を表すものの三つに分類している。

- ①「動作終了後の状態の保持」を表す場合、その前接する動詞には当該の動作の完了に伴って直接の結果が生じることを表す特徴がある。例：どうせ冬までねかしておくものだ。
- ②「動作中の状態の保持」とは前接動詞が表す行為そのものの持続を表すとされている。例：今日は休日だったので、子供を好きなだけ遊ばせておいた。
- ③「間接的な効果・効力」を表す場合、実際に目に見えない間接的な効果が存在する時に「～ておく」が用いられる。例：留学中に一度富士山に登っておこう。

V-p koy の先行研究である Yudahin [1965: 393] では、「補助動詞として機能している場合、動作の強化や意外性、或は、瞬間的に行われる動作を表す」と述べている。

- (3) Arzan sat-ïp koy-du. (4) At-ïn moyun-ga čaa-p koy-du.
 安い 売る -CVB おく -PAST 馬 -POSS 首 -DAT 打つ -CVB おく -PAST
 直訳：「安く売っておいた。」 「馬の首を鞭で打っておいた。」

また、Redcollegiya [2009: 399] では、v-p koy を動作の完了を表す補助動詞の一つとして位置づけている。

- (5) Janagï čay-ga uu čila-p koy-uptur.
 さっき お茶 -DAT 毒 入れる -CVB おく -PAST
 「さっきのお茶に毒を入れておいたようだ。」

V-p koy は「ものをある場所におく」という実質的な意味が強く残り、物の状態が目に見える形で存在する場合に使用されるのが多いため、大場 [2005] の①の観点では日本語はキルギス語と対応していると言える。しかし、②と③については対応していないと言える。②の場合には、補助動詞より、本動詞が使われる方が自然になる。③の場合には、v-p koy ではなく、動作主が自分自身の利益のために行う行為を表すため、別の補助動詞 v-p al (取る) が使われる。

次に、本動詞が否定接尾辞 -ba、-be を含む場合は、その動作が実現せずに、文全体として「後悔」の意味を表す。

- (6) Al kiši-nin til-in al-ba-y, ayt-kan-ïn uk-pa-y koy-du.
 彼 人 -GEN 舌 -POSS:3 取る -NEG-CVB 言う -VN:POSS:3 聞く -NEG-CVB おく -PAST
 直訳：「彼は人の言うことを聞かないでおいた。」

なお、補助動詞 *koy* 自体が否定接尾辞 *-bo* を含む場合は、文全体として「警告」や「非難」の意味を表す。例えば、*ayt-ıp koy-bo* 「言っておかないで」のような例が挙げられる。

最後に、本動詞と補助動詞 *koy* がともに否定接尾辞を含む場合、その動作は必然的に実現することを表す。

(7) *Jašoo-do kīyīnčilik-tar bol-bo-y koy-bo-yt.*

人生 -LOC 困難 -PL なる -NEG-CVB おく -NEG-PRES

直訳:「人生には苦勞がならないでおかない。」 意訳:「人生には苦勞がないことがない。」

以上の通り、「～ておく」と *v-p koy* の形式的なずれとして、キルギス語において①本動詞が否定接尾辞を含む場合、②補助動詞が否定接尾辞を含む場合、③本動詞と補助動詞がともに否定接尾辞を含む場合、日本語はいずれも「本動詞」で表される点にある。キルギス語はそれぞれの場合になんらかのモダリティ的な意味を含意している。

このように、「～ておく」と *v-p koy* は類似した意味を有していながらも、詳細は異なっていると思われる。特に、キルギス語の *v-p koy* は文法化があまり進んでおらず、動作の結果の状態として存在するものにおいて使用することができる。一方、対象が人であり、効果や効力しか存在しない場合においては補助動詞として使用することができない。さらに、*v-p koy* は日本語と異なり、本動詞が瞬間的な動作を表す動詞（くしゃみをする、微笑むなど）に後接する。その場合も動作の完了を表すとされ、同時になんらかの補助的な意味（動作の意外性、速さ、断固性）が含まれ、モダリティ的な側面がある。今後は、用例を増やして、更なる検討が必要であろう。

<参考文献>

- 大場美恵子 2005 「補遺助動詞「おく」についての考察」『東京大学留学生センター教育研究論集』第14号、19-33頁。
- 高橋太郎 1969 「すがたともくろみ」[金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房、118-153頁所収。]
- Redcollegiya. 2009. *Azirkī kīrgīz adabiy tili* (現代標準のキルギス語), Kīrgīz Respublikasīnīn Uluttuk ilimler akademiyasī, Avraziya Press: Biškek.
- Yudahin, K. 1965. *Kīrgīzsko-russkiy slovar'* (キルギス語・ロシア語辞典), Sovetskaya Enciklopediya: Moskva.

(宇都宮大学大学院国際学研究科博士後期課程)